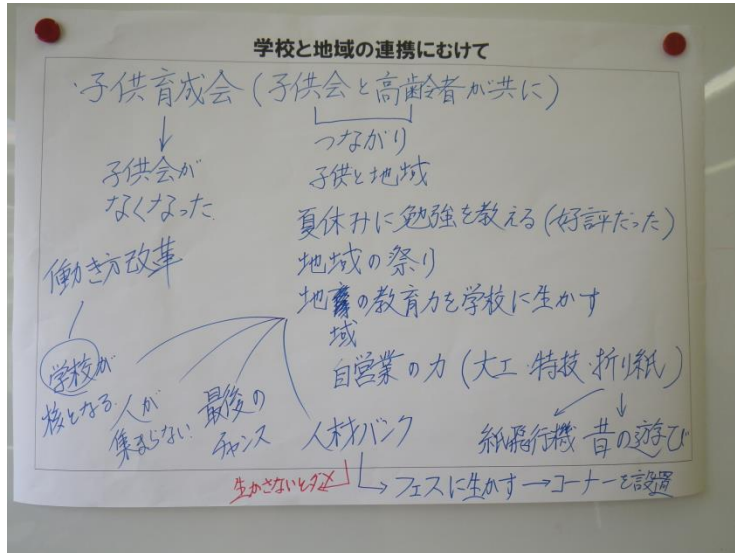


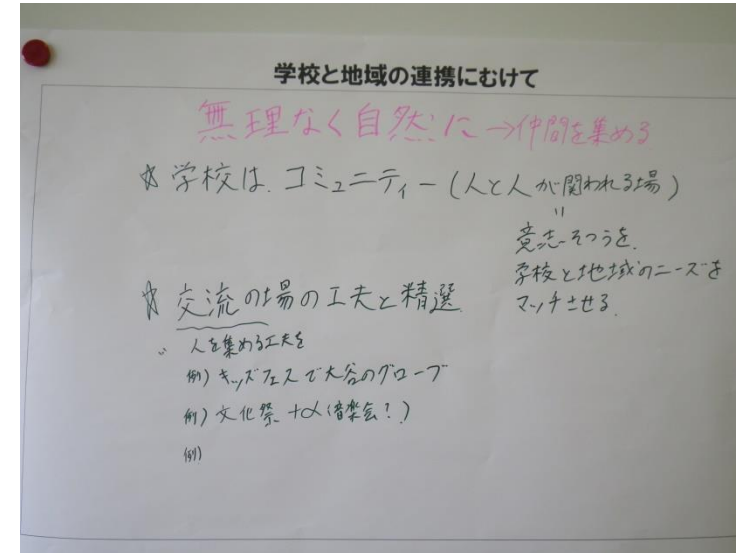
今年度第3回の学校運営協議会を令和5年12月19日に開催し、11名の委員の方々にご出席いただき、「学校と地域の連携に向けて」とのテーマで、3グループに分かれて熟議を行いました。以下、その内容をご紹介します。



子どもと高齢者がつながる地域を作っていく必要があるのではないかと。地域の教育力を生かす必要があり、最後の機会になっているのではないかと。

人を集めるには学校が核になるのだが、学校の負担が増え、働き方改革にはつながらない。

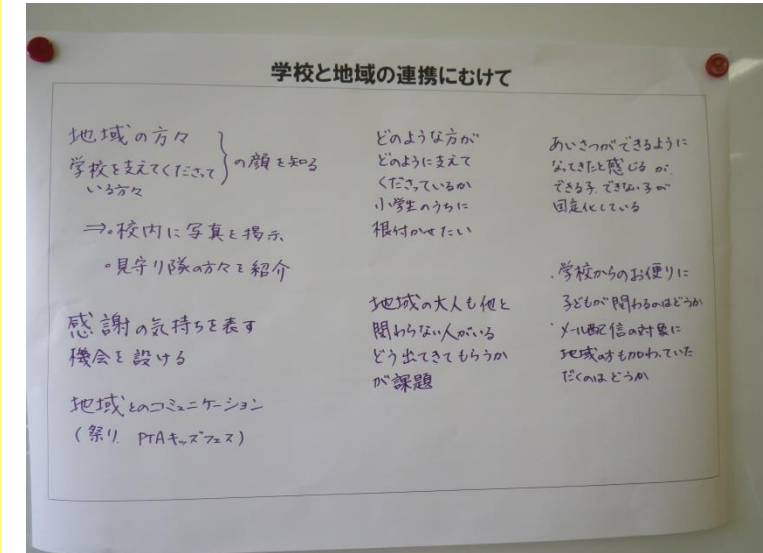
地域の教育力を人材バンクに登録し、3学期のキッズフェスに地域の方のコーナーを設置して、昔の遊びなどをやることによって、学校と地域とがつながる場所になるのではないかと。



無理なく自然に仲間が集まれる場であることがまず一歩である。学校は地域のコミュニティの場、人と人が関われる場を作っていく。地域と学校のニーズをマッチさせ、人を集めることがキーワード。

具体的な案として、キッズフェスで大谷選手から贈られるグローブを披露してはどうか。

また、幸手市文化祭と市内音楽会を同時開催すると、双方に関心のある方々が行きやすく、人が集まりやすくなり、盛り上がるのではないかと。



学校を支えてくださっている方々がいることを知り、小学生のうちに感謝の気持ちを根付かせたい。

そのような方々の顔を知るため、校内に写真を掲示したり、終業式等にご来校いただき、児童に紹介したりするのはどうか。

地域の中には、大人でも他と関わらない人がいるが、どのように出てきてもらうか、子供とどう関わってもらうかが課題。

学校からのお便りの配布に児童が関わったり、メール配信の対象に地域の方を加えたりするのはどうか。

さくら小学校岸校長より

11月はインフルエンザで学級閉鎖・学年閉鎖があったが、ようやく落ち着いてきた。運動会や持久走大会等の行事は、PTAの皆様の協力を得ながら無事開催できた。働き方改革により、緊急時の電話対応をどうしていくかが課題となっている。「定時退勤推奨デー」を1月15日から19までの5日間予定しており、職員が定時に退勤することになる。学校の働き方改革と教育の質の維持との両立が課題となっている。来年度、創立20周年を迎える。記念式典や記念品の作成等を計画していきたい。

幸手市教育委員会学校教育課佐久間指導主事より

地域・保護者・子供・教職員等、学校に関わる方が生きがいや楽しみを見いだすことができるようなつながりをどうとっていくかが重要な課題であり、いろいろな人が関わって学校を創っていくといいと思う。思ったことをフリーに話せる雰囲気がよい。自然に続けていくことができるようなつながりをいかに作っていくかを今後も話していただき、できることから少しずつ取り入れていくことが大事。